

各学年の活動から ~多くの方々とのかかわりに支えられて~

12月に入ってインフルエンザ罹患者が増え、4クラスで学級閉鎖となりました。そんな中でも、各学年で充実した学習活動を行ってきました。11月12月の活動の中から、保護者の方や地域の方々にお世話になって行った活動や、交流の様子の一部を紹介します。

1年生は、近隣の保育園や幼稚園・認定子ども園との交流を行いました。一人ひとりが台詞を分担して会を進め、開明小学校に関するクイズを出したり、校歌を歌ったりしました。堂々と交流会を進めていく1年生が、とても頼もしく見えました。じゃんけん列車では園児と楽しく交流し、来年入学してくる来入見の子たちとよいつながりができました。



2年生は、JAの方々や保護者の方に支援をいただき、とうふ作りを行いました。少量ですが、自分たちで育てた大豆も使い、前日に水に浸した大豆をすりつぶすところから始めました。火にかけて大豆が吹きこぼれないようにゆっくりと木べらでかき混ぜる姿は、真剣そのものでした。家庭ではなかなか作ることのない豆腐を、多くの方に手伝っていただきながら無事に作り上げることができ、大変貴重な体験となりました。



3年生は、社会科の学習で、消防署見学に出かけました。消防署までの長い道のりを歩く途中には、たくさんの商店や施設があります。歩く中で様々な発見があり、自分たちの生活を支えている地域を知るよい機会となりました。途中で、トイレを借りるために鎌田小学校に寄りました。なかなか行く機会のない隣の学校の雰囲気を感じてくることもできました。



4年生は、ねぎ農家の青木さんにお世話になって、春から松本一本ねぎを育ててきました。植え付け作業からずっとお世話になっている青木さんと、一本ねぎぎょうぎの信栄食品さんに教えていただきながら、クラス毎にねぎ餃子作りをしました。

地域の伝統野菜を育てることを通して、「松本」を見つめ直すよい機会となりました。



5年生は、ミシンの学習でランチョンマットを作っています。コミュニティスクールコーディネーターの川上さん(松南地区公民館長)にお願いし、4人のボランティアの方々に来ていただきました。

糸が絡まったり、糸の通し方が難しくて四苦八苦の児童もいましたが、根気よく丁寧に教えていただき、少しずつ縫い進めることができました。



6年生は、1,2年生を招待して「冬祭り」を行いました。1,2年生の笑顔思い浮かべながら一生懸命に各コーナーの準備をしていた様子や、当日も喜んでもらおうと精一杯相手のことを考えて関わっていた様子から、これこそが「自分を好きになろう 友だちを好きになろう」を実現している姿だと感じています。「卒業」が見えてきた6年生にとって、自分たちの『思い』『願い』を開明小学校に残していくことができた大事な機会となりました。



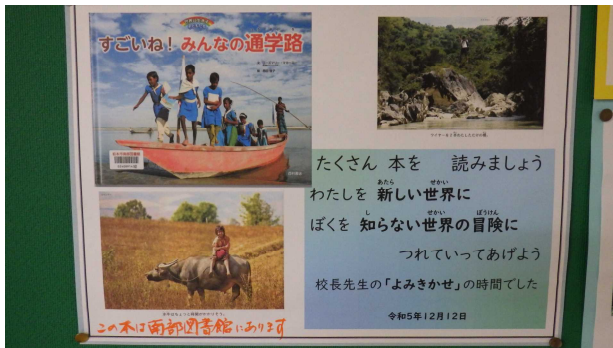
球根を植えました



2年2組とCS運営委員会の方々と一緒に、南庭の花壇にチューリップとスイセンの球根を植えました。固くなっていた土を松南地区公民館の金井さんが耕運機で耕し、木工町会長の石田さん、公民館長の川上さんや伊藤さんが更に鍬やスコップで落ち葉を混ぜながら耕してくださいました。2年生が、一人ていくつもの球根をふかふかになった土の中に丁寧に植えていきました。春になり、新しい一年生が入学してくる頃、きっときれいな花を咲かせていることと思います。

2学期も、保護者の方々や地域の皆様からの支えによって、充実した学習活動を行えたことに大変感謝しています。

読書旬間 ～校長先生の読み聞かせ～



12月11日から22日までの読書旬間に、本に親しむための様々な活動を行いました。

13日には、校長先生より本の読み聞かせを(上の写真)していただきました。ZOOMでの読み聞かせでしたが、子どもたちは、自分たちの知らない新しい世界に引き込まれていきました。本のよさを知り、これからも多くの本に親しんでいってほしいと思います。

☆学校評価アンケート ご協力ありがとうございました

学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。また、Home&Schoolでの回答にもご協力いただき、ありがとうございました。本日、結果についての通知を配信しました。

体罰調査については、いただいたご意見について学校として真摯に受け止め、対応をしてきました。子ども達が前向きな気持ちで学校生活を送ることができるよう、引き続き努力して参ります。今後も、お気づきのことがありましたらいつでもお知らせください。

◆◆一学期終業式 学校長の話より◆◆

おはようございます。今日もみんな元気ですね。寒いなかでも、学校に来てくれてありがとう。今日で2学期が終わりますね。夏休み明けのまだとっても暑い夏から、雪が降り寒い冬まで、夏、秋、冬と3つの季節をまたいだ86日間の2学期の終了です。

2学期、自分で一番がんばったことはどんなことですか。

さて、このお休み、新しい年を迎えます。

日本では昔から、大晦日12月31日の夜から、1月1日の元旦にかけて、「年神さま」がどこか遠くからやってくると信じられていました。そして年神さまは、人々に2つのプレゼントをくれると考えられていました。

一つめのプレゼントは、新しい年齢をどの人にも一つ授ける、みんなが一斉に一つ年を取るということです。「年を取る」ということから「お年取り」と言われていました。昔は数え年と言って、生まれたときにはだれもが1歳でした。そして、大晦日から元旦にかけて、年神さまがやってきて、1歳、年を授けてくださるので2歳になりました。校長先生は12月生まれですが、生まれてすぐ1歳、そしてその30日後には2歳ということです。このように年神さまが授けてくださる年のことを「年玉」と言っていました。「玉」とは、「魂」(たましい)という意味で、お米のなる稲には魂が宿る、稲からできたお餅には魂が宿る、という「稲魂(いなだま)」という考え方がもとになって、「新しい年の新しい魂」として「お餅」をいただいたそうです。

年神さまのもう一つのプレゼントは、新しい年の良い運です。一年間のよかったこともよくなかったことも、12月31日にいったんすべてなし、にして元旦に新しい年を迎えてよい運を年神さまからプレゼントしてもらえば、その一年はすべてよい年になるという考え方です。だから、人々は年神さまからよい運をいただくために、大掃除をして体や心もきれいにし、注連飾りをして門松を立て、大晦日から元旦を静かに年神さまが来てくださるのを待っていました。そして、年取りのごちそうに、白米のご飯とサケやブリなどの年取り魚を食べ、元旦には年玉の餅を入れた雑煮を食べて年を取ったのでした。年取りのご飯を食べて、雑煮の餅を食べて、古い年の自分から新しい年の自分へと生まれ変わるという意味があったのです。

さて、サケやブリといった年取り魚を食べる習慣、みなさんのお家にはあるでしょうか。校長先生の家では、大晦日にブリを食べます。でも、先生の母親の生まれた家ではサケを食べていました。いろいろ調べてみると、日本の東半分はサケ、西半分はブリが食べられていたようで、ちょうど長野県がその境目らしいのです。先生方にも聞いてみたところ、20人の先生のうち、サケが7人、ブリが7人でした。6人の先生は、年取り魚はありません、とか、どちらも食べますといった答えでした。

みなさんのお家では、サケを食べるのかな、ブリを食べるのかな、それとも何か違うものかな。「私のうちのお年取りのお魚って、なあに？」って、お父さんやお母さんに聞いてみてください。そして、校長先生にまた教えてください。

大晦日やお正月のこのお休みは、家族で過ごすこと、家族を感じる事がいつもより多いお休みになると思います。それぞれのお家の過ごし方があると思います。ぜひ、大掃除やお正月のお料理の準備など、お手伝いをしっかりして、新しい年を迎えて新しい気持ちの自分になって、また1月9日に全校みんなでお会いしましょう。

校長先生のお話を終わります。それでは、よいお年をお迎えください。

○お知らせ・お願い○

学校への連絡について

年末年始休業中の閉庁日は12月29日(金)から1月3日(水)です。

この期間の交通事故等の連絡は、市役所宿直〈34-3000〉へお願いします。

新型コロナウイルスやインフルエンザ罹患の連絡は、休み中でも、わかった時点ですぐにHome&Schoolでご連絡ください。その際、発症日の記入もあわせてお願いします。

事故やけがに気をつけ よいお年をお迎えください

